

しょうがいしゃ

ちいき せいかつ しょうほうし



「障害者」の地域生活情報誌

Vol. 27

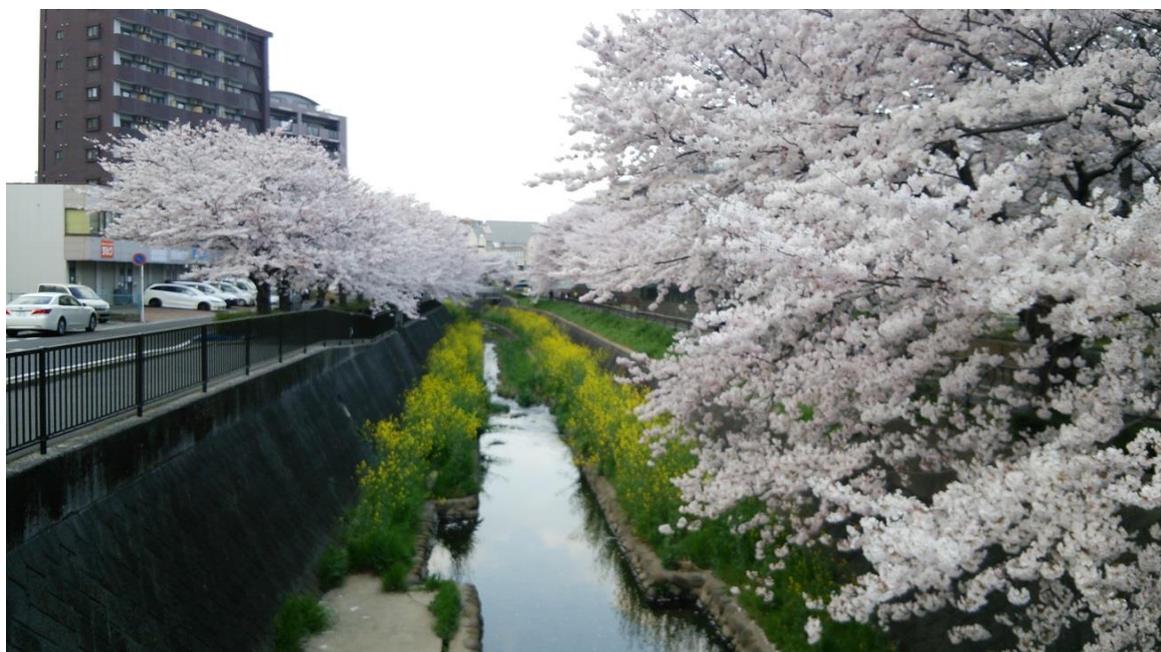
ぶるーむ.com

20155

はるごう
春号

じぶん せいかつたの
～ 自分の生活楽しんでますか? ～

わがや きんじょじまん
我が家の近所自慢♪



CONTENTS

P2 いちごが ほうこく
苺狩り報告

P3 なおみちゃん ぶゆう
舞遊デン

P5 Oh-Life&川柳 せんにゆう
コーナー

P7 おれ
俺のCIL がこんなに・・・

P9 ぶるーむ かつどうほうこく
活動報告

◆「ぶるーむ」の由来◆

えいご ひょうき
英語のbloomをひらがな表記したものです。

bloomには、「(花が) 咲く」「(才能・事業な
どが) 花開く」などの意味があります。この

きたきゅうしゅう ち じりつせいかつ どじょう
北九州の地で、自立生活の土壌をあらため
ておこすことから始め、それぞれの自立生活
の種を植え、色とりどりの自立生活の花が咲
きほこるという願いをこめました。

イチゴ狩り報告

おーじ

はいさいゴーヤー茶！（こんにちはゴーヤー茶！）

ていーだかんかんやしがやったーちゃーがんじゅーかー？（太陽さんさんだけとお前ら元気かー？）

僕はというと、去る二月七日にぶるーむで企画されたいちご狩りに、司会役として原さんと一緒に参加させてもらいました。初めて司会を担当する原さんのフォロー的なね。原さんも大船に乗ったつもりで安心したことでしょう！ま、そこは司会の先輩としてね？多少はね？

参加者が続々と西小倉駅に集合していざラピュタファームへ出発進行♪微妙な天気を吹き飛ばすかのように原さんの見事な司会っぷりが大盛況！（これ僕いらないよね？しゅーん）

盛り上がる皆をよそに非常に居心地の悪い先輩司会の僕です。途中の道の駅で解放され・・・失敬、降りて皆でお昼ご飯を食べて、一億円トイレで用をたしたら再びバスに乗りラピュタファームへ。ここからは僕がメインで司会をします。

前半でどこかの原さんが盛り上げてくれたおかげで僕のハードルはあげあげですよ。天空の城ラピュタですわこんなん。しかしそこは先輩としての実力を見せつけ大盛り上がり（願望）のままラピュタファームへ到着。

ぷちっぷちっと我先にいちごをもぎ取るその姿はまさしくイチゴハンターそのもの！大きいものや、形がいいもの、美味しそうないちごを一つとる度に皆の笑顔が一つこぼれていきます。あははと笑いながらラピュタファームに広がる、皆の大満足の笑顔が僕にとってのいちごでした。ご馳走様でした。



ぶゆう ななみちやんの舞遊(ぶゆう)

いわいな おみ
岩井菜穂美

「アメリカ暮らしは四苦八苦」の巻Part5

今回も編集長がノイローゼになっちゃうくらい、原稿が遅れてしまった。いつも、こんなんでいいの!? いいわけないじゃん! 4月から始まったドラマの中で主演のお父さんの台詞で「俺には『地道に』という才能がない」と面白いこと言ってたけど、私もそうかもしれないと思う今日このごろ。やれば出来る子なんだから、もう少しちゃんとしよ! 嘉藤編集長、本当にすみません!!



さて今回は、バークレーの交通事情について書いてみようと思う。只、当時と現在では随分と変わっていると思うので、参考程度にしてね。

バークレーの主だった交通機関と言えば、バスとBART（バート）と呼ばれる地下鉄。

私の住んでる所からCILまで行くのにはBARTでバークレーから隣駅まで行き、その後リフト付きのバスでCILの最寄りのバス停まで行くというのが一番早い。

・・・が、しかし、このバスが曲者。リフトの故障が多い・故障してなくても運転手が扱い方を知らない・日本人だと乗せてくれない? (差別や偏見はそうたやすく無くないのだ! って気がする) とにかくバスには乗れないことが多く、歩けない距離でもないでBARTの駅から歩くことにした。

この方法を使ったおかげで、私はすごく日焼けして半年間で真っ黒になってしまった! なぜって? それはね……、

CIL は東側^{ひがしがわ}にあって、行きは朝日^{あさひ}を顔^{かお}に浴^あびる訳^{わけ}よ。ということは、帰^{かえ}りは夕方^{ゆうがた}だから西日^{にしび}をガンガン^う受^うけるって^わいうこと。分^わかるよね？ よって、私^{わたし}の顔^{かお}は半年^{はんとしかん}間で真^まっ黒^{くろ}になった^なってこと。

パークレー^{にしかいがん}は西海岸^{てんき}だから、お天気^{てんき}いいしね。

マ、そんな日々^{ひび}を送^{おく}って^{わけ}た訳^{わけ}だけど、ある日^{ひたの}頼^{たの}みの BART がエレベーター^{てんけん}の点検^{てんけん}かなんかで動^{うご}かない日^ひがあった。時間^{じかん}は随分^{ずいぶん}かかりそうだし、家^{いえ}に帰^{かえ}る^{わけ}っ^{わけ}ちゅう訳^{わけ}にもい^いかない。

そこで、少し^{すこ}考^{かんが}えた私^{わたし}は決^きめた、CIL まで電^{でん}動^{どう}車^{くるま}イ^いスで歩^{ある}こう^あう^あ！^あって。

だって、その頃^{ころ}は携^け帯^{たい}電^{でん}話^わとかもな^ないし、誰^{だれ}とも連^{れん}絡^{らく}の付^つけよう^{よう}がな^なか^かった^たんだも^もん。

ち^ちか^かて^てつ^つ ひと^{ひと}え^えき^き ある^{ある} はん^{はん}ば^ば 地下^{ちか}鉄^{てつ}で一^{いっ}駅^{えき}だとい^いって^ても、歩^{ある}くと半^{はん}端^{たん}じゃ^{じゃ}ない。「なん^{なん}で、
こ^こんな^{んな}決^けつ^つだ^だん^んを^をし^した^たん^んだ^だら^らう^う？」と、後^{こう}悔^{かい}し^して^ても^も遅^{おそ}い。北^{きた}九^{きゅう}州^{しゅう}だ
とど^{とど}こ^こか^から^らど^どこ^こま^まで^でく^くら^らい^いな^なん^んだ^だら^らう^う？ う^う～[～]ん、赤^{あか}坂^{さか}辺^{あた}り^りか
ら^ら豎^{たて}町^{まち}の^の事^じ務^む所^{しょ}く^くら^らい^いカ^カナ^ナ～[～]？



と^とにか^かく、1^じ時^{かん}間^{いじょう}以上^{いじょう}か^かか^かって^て CIL に^に到^{とう}着^{ちやく}。み^みん^んな^なか^から「今^{きょう}日^{おそ}は^い遅^いか^かった^たね」と^とか^か言^いわ^われた^たか^から、い^いち^ちい^いち「家^{いえ}か^から^らず^ずと^と歩^{ある}い^いて^て来^きた^たん^んじ^じゃ！」と、あ^あた^たり^りち^ちら^らし^しな^なが^がら^ら説^{せつ}明^{めい}した。

け^けれ^れど、こ^この^の経^{けい}験^{げん}は^は後^ご日^{じつ}こ^この^の日^{にほん}本^やで^で役^{やく}に^に立^たつ^つこ^こに^にな^なる。そ^それ^れは^は……、わ^わっ^っし^しょ^ょい^い
ひ^ひゃ^ゃく^くま^まん^んな^なつ^つまつ^{まつ} は^はな^なび^び よ^よる^るの^の夜^よの^のこ^こと。そ^その^の日^ひ、1^ひ人^りで^で博^は多^たに^に行^いって^てた^た私^{わたし}は^は花^は火^{なび}が^が終^おわ^まえ^えか^かえ^え
ろ^ろう^うと^と急^{いそ}い^いだ^だけ^けど、間^まに^に合^あわ^わな^なく^くて^てバ^ばス^すを^を何^{なん}本^{ほん}待^まって^ても^も乗^のれ^れな^なか^かった。そ^そこ^こで、あ^あの^の考^{かんが}
え^えが。歩^{ある}い^いて^て帰^{かえ}ろ^ろう^う！

あ^ある^る 歩^あき^きま^ました^たよ、香^か春^{わら}口^{ぐち}～葛^く原^{すはら}ま^まで。き^きつ^つか^かった^たあ^あ～!!

人^{じん}生^{せい}は、い^いろ^ろい^いろ^ろな^な事^{こと}が^が起^おこ^こり^りま^ます。

ん^んな^なと^とこ^ころ^ろで、次^じ号^{ごう}へ^へ続^{つづ}く^く(^o^)/

Oh-Life

10話 「普通ってなに？」という問いは受け入れられない！！

「お前、^{まえ}“てけてけ”^{まへ}みたいになれば？」^{くるま}「お前も車いすから降りてサッカーしろよ」
「^{さかだ}逆立ちだったら腕力^{わたりよく}だけでも歩いて生活^{ある}できるよね？」これは、^{ぼく}僕が^{だい}10代の頃^{ころ}に人^{ひと}から言われた言葉である。ちなみに“てけてけ”とは、下半身^{かはんしん}が無いにも関わらず、時速^{じそく}150 km^{じゆん}で地面^はを這いながら追いかけてくる妖怪^{ようかい}のことである。この3つの発言^{はつげん}の大きな意味^{いみ}としては「下半身^{かはんしん}がダメでも、それを補^{おぎな}うくらい上半身^{じょうはんしん}を鍛えて頑張^{がんば}れよ」ということである。とても失礼な発言もある気がするが、発言した人たちに僕に発破^{はつぱ}をかけたいのだろう。

だが、^{かり}仮に読者のみなさんが障害^{しょうがい}で足^{あし}が不自由^{ふじゆう}だとして、^{すこ}凄い努力^{どりよく}をしてまで逆立ち^{さかだ}で日常生活^{にちじょうせいかつ}を送りたいだろうか？その生活^{せいかつ}を送ることが普通^{ふつう}だろうか？少し想像^{そうぞう}してみたい。もし自分の周り^{まわ}で、本当に逆立ち^{ほんとう}で日常生活^{にちじょうせいかつ}を送っている人がいるとすれば、それはもう違和感^{いわかん}を通り越してギャグである。僕も26年間生きてきた中で、様々な努力^{どりよく}をしてきた。だがそれは、僕自身^{ぼくじしん}が、健康者^{けんじょうしゃ}が普通^{ふつう}に送っているような生活^{せいかつ}を望んでいたのであって、「世界〇見え」的な番組^{ばんぐみ}で特集^{とくしゅう}されるびっくり超人^{ちやうじん}や、テレビや本^{ほん}にでてくる健気^{けんげ}に頑張^{がんば}る障害者^{しょうがいしゃ}になりたかったわけでは決してない。

最初の^{さいしょ}“てけてけ”^{はつげん}発言^{ひと}をした人が、「お前は俺の知^{まへ}っている障害者^{しょうがいしゃ}じゃない」と急にキレてきたことがあった。「お前の知^{まへ}ってる障害者^{しょうがいしゃ}ってなんだよ！？」とこっちが逆ギレ^{ぎやく}したい気分^{きぶん}だったが、そこは冷静^{れいせい}に切り返^きしてみた。その人の知る障害者^{しょうがいしゃ}は、普通^{ふつう}の人^{ひと}より能力^{のりよく}が劣^{おと}っている分^{ぶん}、自分の秀^{ひい}でている部分^{ぶぶん}を一点突破^{いってんとつぱ}で伸ばそうと生きている人^{ひと}たちのことだそう。その当時の僕^{ぼく}は大学生活^{だいがくせいかつ}を満喫^{まんきつちゆう}中で、オタク生活^{せいかつ}も興味^{きょうみ}あるけど、おしゃれも大事^{だいじ}！！けど勉強^{べんきやう}は…(笑) 的なスタンス^{わらい}だった。どうやらこのスタンス^{はつげん}が、その人的^{ひとてき}には気^きに入^いらなかったらしい。僕は普通^{ぼく}に大学生活^{ふつう}を楽し^{だいがくせいかつ}んでいただけなのだが…。

3つの発言^{はつげん}をした人全員^{ひとぜんいん}にイえることなのだが、3人とも頭^{にん}の中に「俺の知^{あたま}っている障害者^{しょうがいしゃ}像^な」があるのではないだろうか？その障害者^{しょうがいしゃ}像^{ぞう}の情報元^{ソース}はテレビなどのメディア^{じぶん}かもしれないし、自分が障害者^{しょうがいしゃ}と接^{せつ}した経験^{けいけん}かもしれない。その人^{ひと}たちも、その障害者^{しょうがいしゃ}像^{ぞう}を基^{もと}に良かれと思^{おも}って色々助言^{いろいろじよげん}？してくれているのだろう。

だが、僕がその障害者像に一致するわけではない。あくまで僕は僕なのである。当たり前前のことのように、このことを理解してもらうことがなかなか難しいのだ。

文字数に限界が近づいてきたので、こちらへんで終わりにしようと思う。今回の話は、書くのがとても苦労して、僕の伝えたいことの3割も書けてないかもしれない。前回からの勢いで引き続きこのような話を書いたが、もうお腹いっぱいである(笑)もうそろそろ、普通のオタクライフを書きたいものだ…。

れんさいせんりゅう
連載川柳
しらとりひなこらん
白鳥雛子の乱

のん☆三が架空の川柳作家になり、川柳を連載します。

・血管をゼリー流るる夜の淵

■解説

ゼリーを食べる時、血液になる気がする。特に夜の淵、孤独の中にいる時には。もしくは、血管をゼリーが流れてでもいるかのように、自分の存在が作り物めいて感じられる夜があるものだ。

・リカちゃんと似たわたしのふくらはぎ

■解説

歩かないリカちゃんのふくらはぎは極めて織い。ベッドの上で座位でふたり対応で運ばれた際に、自分のふくらはぎを見下ろして、そのあまりの織さに、「歩くと云うことをまるきり知らない脚だ」と思ったところからできた句。

俺のCILがこんなに可愛いはずがない ②

くぬぎようへい
久貫陽平

これ書いてるの3月なんですけど、寒いですね。おしっこが止まりません。介助者にとって大問題です。

あと、どうでもいいですけど街に見慣れない若い子たちが多いい気がします。冬休み？卒業式前の暇な時期かしらんと思いつつながら車イスの後ろをトボトボ。

なんか視線が痛い。前を歩く若い子たちが凄いい振り返りながらこっち見てました。普段は昼間に街中じゃあまり見ない子たち。

「そんなにコジキが車イス押してんの珍しいのかしら？」たまたま視線が合ったのでカツアゲでもされるのかと思つたら、視線を落としてニヤニヤ。

「なんだよ！コジキだって車イス押すぜ！？」いや、違うか。

こういう時、差別解消法はこの子たちを車イスで轢いて良かったんでしょうか？介助者は手足だなんだって言つても法律じゃ介助者も共犯になるし、結局、障害者は自分に売られたケンカも自分の責任じゃ買えないんですね。

明らかに自分より弱い存在。どんなに低所得だろうがニートだろうが、不細工だろうが底辺だろうが、車イスに乗ってる人間は健体者である自分より弱いという常識。

若い子たちがニヤニヤするわけですよ。あきらかに弱ってるおばあちゃんだってガンバって！と声をかけてくるわけです。もう、同じ人間なのかと思うくらい底なしの底にランキングされてるんじゃないでしょうか。

ホーキング博士や乙武さんみたいにならないと、底なしの底から脱出できないんでしょうか？普通の生活をしてるだけじゃ底なしの底のままなんですかね？

現状、障害者は特別な力と結果を示さなければ、同じ人間・同じ一般市民として認められません。どんなキレイごとを言つても事実です。

その反動として、障害者運動の中では当事者主体と言つた逆転現象を起こし、障害者というだけで上位の存在かのように、職場内や運動の場面で健体者を一歩引かせた立場にしています。

外の世界に出れば、障害者というだけで弱者扱いなので、障害者が健体者と対等になる為に、障害者運動の世界では健体者を一歩引かせた存在にしているのです。

CIL と呼ばれるウチのような団体が当事者主体を叫ぶ理由がこれです。

介助が当事者主体なのは議論の余地がありませんが、では運動体としての場面で、当事者主体を言わなければならない理由の根本的な原因はなんでしょうか。

それは、議論の余地がない当事者主体の介助が、実際は当事者主体ではないからです。

サービス提供責任者やコーディネーターに生活の肝である介助派遣を任せ、障害者は自分の生活すら責任をとらなくていい、とれないんだという存在になっているからです。社会的には永遠に親から自立することのない子供といった立場です。どれだけ介助保障が充実し、介助者を使って一人暮らしをしようが、大人がだれしも当たり前にとっている自分の生活の責任を、障害者はとれないというのであれば、いつまでも障害者は弱者の中の弱者としてしか扱われません。

これは介助を使う人間がダメだからということではなく、そういう仕組みで介助を使っているからです。よほど力のある人間じゃなければこの仕組みからは抜け出せません。

この仕組みから抜け出すために、わざわざ当事者が自分たちの為の介助派遣事業所を立ち上げたのですが、結局、以前のように介助を人質にとられています。自分がずっと使いたい介助者を自分で守ることもできず、自分の生活に必要な介助者を自分で得る権利も責任もありません。

介助は生活に必要であり、生活は生きていく上で最も大切な活動です。その最も大切な部分を自分の責任で動けないことから目をそらし、それはしょうがない事だという前提で、社会でどうやったら自分たちが暮らしやすくなるかという事を、健体者を後ろに立たせ運動しているのです。

まず何を変えるべきなのかは明白です。変えなければ100年経っても障害者は社会のお荷物でしかありません。どんなに障害が重くても、どんなにだらしなくても、どんなにダメな人間でも、障害者としてではなく、一般人として介助を使い、一般人としてだらしなく、一般人としてダメな生き方ができる世界を100年後に作るための今です。

それを内部で実践し外の世界に要求していくことができるのは、障害者団体である私たちだけです。

へんしゅう ひとこと 編集より一言

所々、刺激的な表現も多いですが、筆者の伝えたいことをそのまま伝えるため、敢えて表現に修正はしていません。

かつどう ほうこく
活動報告

へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ
平成26年11月~平成27年1月

11月 

JRカスタマーサポート研修^⑫

ヘルパー研修^①A「介助者の基礎知識」

JRカスタマーサポート研修^⑬

北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会来賓参加

UDワークショップ

わかまつこうこうでまえこうし
若松高校出前講師

よろず!!-52-

ピアカウンセリング長期講座(ヒューマンネットワーク熊本
主催)派遣リーダー

りじかい
理事会

12月 

ピアサポ

カスタマーサポート研修^⑭

ピアサポ

りじかい
理事会

JIL全国セミナー品川

ぶるーむ総会&感謝祭

ピアサポ

ヘルパー研修^②A「屋内介助」

1月 

イオンレシートキャンペーン

ヘルパー研修^②B「屋内介助」

キネマン

じりつしえんきょうぎかい
自立支援協議会

こうじのうきのうしょうがいしゅしえんしゃけんしゅうかい
高次脳機能障害者支援者研修会

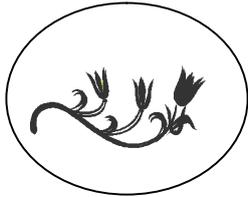
しょうがいしゃだんたいれんらくかい し いけんこうかんかい
障害者団体連絡会「市との意見交換会」



へん しゅう こう き
編集後記

もう4月ですね、正月が昨日のようです。このままいったらあつという間にお盆になりそうな気分です。年々、時間の経過が早くなってる気が…。【KII】

■ **ロゴについて** ■



この3つが繋がったチューリップには、3J=「自己選択」「自己決定」「自己責任」の意味と、この北九州の地で自分らしい、いきいきとした花を咲き誇らせてほしい・・・という願いがこめられています。

■ **会員募集** ■

自立生活センターの最大の特徴は、運営や各種サービスを「障害者」自らが中心となって行っていることです。これは、「障害者」にとって何が必要かということが一番知っているのは「障害者」自身であると考えるからです。

「自立生活センターぶるーむ」はこの考えのもと、2007年10月に産声をあげました。当団体の活動は、皆さまからのご寄付と会費により支えられています。

ご支援とご協力をお願い致します。

会員種別	年会費
正会員 当法人の目的に賛同し、法人の活動に責任を持って参加していただける個人の方。	3,000円
賛助会員 当法人の事業を資金面などで賛助していただける個人及び団体の方。	5,000円

【銀行振込】 銀行名：西日本シティ銀行 室町支店

口座名義：特定非営利活動法人 自立生活センターぶるーむ 理事 田中雄平

口座番号：1694039

編集人
連絡先

NPO法人 自立生活センターぶるーむ

〒803-0818

福岡県北九州市小倉北区豎町2-1-5 豎町ビル1F

TEL 093-562-5431

FAX 093-583-3257

E-Mail cil-bloom@nifty.com

URL <http://homepage3.nifty.com/cil-bloom/>

定価 100円